

北海道がんセンター通信

2014

第30号

NOVEMBER



「北湯沢」

CONTENTS

● 上海および台湾医療関係者の当院訪問	院長	近藤 啓史	… 2
● 開催報告「第14回がん診療連携症例検討会」	地域医療連携係長	菊地久美子	… 3
「市民のための北海道がんフォーラム」	がん相談支援・情報管理係長	一戸真由美	… 3
「がん看護研修・ELNEC-J研修」	副看護部長	水野 智美	… 3
● 講演会開催報告			… 4
● 各科トピックス〈症例検討会〉			
「舌がんに対する放射線治療」	放射線診療部長	西山 典明	… 6
● 各科トピックス〈市民フォーラム〉			
「胃がんとヘリコバクターピロリ菌 ～ピロリ菌について知ろう！～」	腫瘍内科医長	佐川 保	… 7
「通院で抗がん剤治療を行うとは」	がん化学療法看護認定看護師 副看護師長	高橋 由美	… 8
「乳がんの新しい治療 ～情報の波にのまれないように～」	乳腺外科医長	渡邊 健一	… 9
● 開催報告「平成26年度がん看護研修 1.がん看護研修ステップI、2.ELNEC-J研修」	教育研修係長・看護師長	相生 洋子	… 10
	外来師長	早坂砂江子	… 11
● がん専門医が行う当院のがん検診			
● 開催報告「北海道 がんと闘う医療フェスタ 2014」			… 12
● 緩和ケア研修会実施報告	緩和ケア診療科医長	松山 哲晃	… 14
● 開催報告「第1回北海道がん相談研修会」「第12回北海道がん専門相談実務者会議」	がん相談支援センター 認定医療社会福祉士	木川 幸一	… 15
● お知らせ			… 15
● ボランティアコンサートについて			… 16

北海道がんセンターの理念
私たちは、国民の健康のために、良質で信頼される医療の提供に努めます。

（基本方針）

- 1 特に、「がん克服」に寄与することを目指します。
- 2 常に医療の質と技術の向上を目指します。
- 3 医療安全を確保し、安心できる医療を提供します。
- 4 患者さんの権利を尊重し、誠実な医療を実践します。
- 5 研究、教育研修を推進し、医学・医療の発展に寄与します。

上海および台湾医療関係者の当院訪問



院長 近藤 啓史

3年前に、上海－北海道外科研究会に出席するため上海交通大学医学院附属第3人民医院を訪問し、熱烈なる歓迎を受けて帰ってきました（注1）。そのとき上海の3大学医学部の外科を訪問して、医学を通じて、交流を深めることになりました。そして2年後の昨秋に北海道釧路、札幌での研究会の開催も決まりましたが、尖閣列島問題に端を發した中国との外交問題にて、先送りになっています。

さて、当院では医療材料管理（SPD）をMCヘルスケアと契約をしています。SPDは病院が在庫を抱えないで、商品を病棟や手術室に置いてもらい、使用した分だけ当方が支払う物品管理システムです。

MCヘルスケアの親会社、三菱商事は昨年中国上海で合弁会社「国葉菱商」を作り、SPDを初めて中国に輸出しました。そして7月25日、上海の同済大学東方病院錢院長代理、看護師長、事務課長、通訳など8人が視察団として、モデル病院の当院を訪れました（写真1）。

私から当院の歴史、経営方針、現状などを紹介し、そして医材管理の現場をみてもらいました。病棟や手術室の在庫物品の少なさ、管理が行き届いている様子、看護師の対応などに大変感銘を受けていました。後日錢院長代理が「SPDの仕組みも感心したが、中国の病院はまずは日本の病院の職員の対応を見習わなければならない」としきりに話をしていただいたことです。

また、10月中旬に台湾の庚紀念醫院、嘉義長庚紀念醫院、高雄榮民總醫院、新光吳火獅紀念醫院から主任・部長クラスの胸部外科医の先生方が、当院を訪問しました。

目的は「安全でかつ確実な手術」を行う当院呼吸器外科の手術見学です。手術前にその特徴を紹介した後、『2人の術者助手で行う、当科の胸腔鏡による区域切除、肺葉切除とリンパ節郭清』の実際を見学させながら、大いにお互い質問や議論をして理解と友好を温めました。また私が開発した手術器具の購入の話も出て大変盛り上がりました。再度お互い訪問し、この領域の進歩をはかろうと話しました。

注1：北海道がんセンター通信 2011年 第14号 p6～7 参照



写真1 院長、事務部長、看護部長が東方病院の視察団に应对中

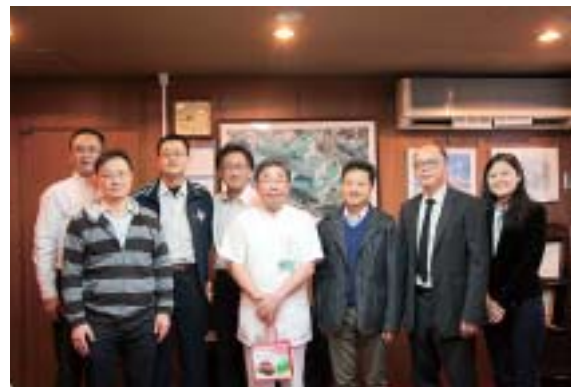


写真2 台湾の胸部外科の先生、通訳の方と院長

第14回がん診療連携症例検討会

平成26年7月30日(水) 18:30~19:45まで行いました。今回は「舌がん・口腔がんのご紹介症例と医科との連携を含めて」のテーマで恵佑会札幌病院 歯科口腔外科主任部長の上田 倫弘先生から、「舌がんに対する放射線治療」のテーマで、次に当院の放射線診療部長の西山 典明先生からの講演がありました。その後お二人の先生と



当院の頭頸部外科医長の永橋 立望先生、北海道大学大学院歯学研究科 口腔診断学 助教 秦 浩信先生の4人のコメンテーターの先生方より、それぞれの立場で「舌がん、口腔がんにおける医科歯科連携の今後の課題」についてコメントをいただきました。



上田 倫弘先生

院内からは医師を含めた78名、院外からは医師を含め49名と計127名の参加で無事終える事が出来ました。西山先生の講演内容については、後ほどトピックスで掲載させていただきます。

市民のための北海道がんフォーラム ～がん専門医と語り合う会～

10月4日(土) 13:00~15:30 北海道がんセンター 1階外来フロアーにて、今年度3回目の「市民のための北海道がんフォーラム」が行われました。当日は、約230名と大変多くの方にご参加いただきました。



今回は、北海道がんセンターの腫瘍内科医長 佐川 保先生、外来化学療法センター(がん化学療法看護認定看護師) 高橋 由美さん、乳腺外科医長 渡邊 健一先生より、基本から最新情報まで、わかりやすくお話しいただきました。(くわしくは、各科トピックスをご覧ください)



腫瘍内科医長
佐川 保先生



外来化学療法センター
高橋 由美さん



乳腺外科医長
渡邊 健一先生



内科系診療部長
高橋 康雄先生

がん看護研修・ELNEC-J研修

がん看護研修は9月9日、26日に2度行われました。講師は当院の佐々木がん放射線療法看護認定看護師と高橋がん化学療法看護認定看護師で、放射線治療を受ける患者の看護、化学療法を受ける患者の看護の講義を行いました。当院の看護師40名に加え、市内4つの病院に勤務されている看護師21名の参加希望があり、熱心に聴講されていました。

また、ELNEC-J研修は当院の菊地、畑中がん看護専門看護師、他外部講師により、9月18日、19日の2日間にわたり行われました。当院から8名、院外は8病院9名の看護師の参加がありました。アンケートからは講義だけでなく、ロールプレイを通じて学びを深めることができたという回答がありました。

平成26年度の開催状況

当院は、平成19年より講演会の講師を派遣しております。がん診療についての知識、経験が豊富ながん専門の医師やスタッフをみなさんの町内会、職場に派遣して「がん」についての講演会などを開催するお手伝いをさせていただいております。

このような講演会で、地域の住民のみなさんに少しでもお役にたつことができるよう考えております。依頼の際は、お気軽にご相談ください。お話の内容や日時調整などを相談の上、派遣したいと思います。

お問い合わせ・お申し込みは、がん相談支援センター 電話 **011-811-9118**

くわしくは当院のホームページをご覧ください。<http://www.sap-cc.org/>

日 時	依 頼 元	時 間	場 所	参加人数
7月17日(木)	メットライフアリコ旭川代理店会	15:00~16:00	旭川ときわ市民ホール	60名
テーマ:「がん患者支援と地域における情報発信、がん患者・家族が本当に知りたいこと」 ～がん相談支援の立場から～ 講師:木川MSW(医療ソーシャルワーカー)				
7月18日(金)	対がん協会小舟会	17:00~18:00	札幌全日空ホテル	20名
テーマ:「腎臓食・肝臓食・膵臓食を中心に家庭で出来る献立」 講師:長澤栄養管理室長				
7月20日(月)	対がん協会予防学級	10:30~11:30	対がん協会がん検診センター	50名
テーマ:「がんと医療費」 講師:木川MSW(医療ソーシャルワーカー)				
7月24日(木)	ライフサロン札幌琴似店	14:00~15:00	ライフサロン札幌琴似店	10名
テーマ:「がん患者と家族が本当に知りたいこと」 講師:木川MSW(医療ソーシャルワーカー)				
9月5日(金)	白石区保健福祉部	10:00~11:00	東札幌会館	20名
テーマ:「女性特有のがん(子宮がん)への対応について ~予防と治療」 講師:加藤副院長				
10月10日(金)	北海道消費生活コンサルタントクラブ	13:00~14:00	京王プラザホテル札幌	60名
テーマ:「大腸がん診断と治療」 講師:佐川腫瘍内科医長				
11月4日(火)	白石区保健福祉部	14:00~15:00	菊水地区会館	70名
テーマ:「肺がんの予防と対応について」 講師:近藤院長				



木川MSW



長澤栄養管理室長

「女性特有のがん(子宮がん)への対応について ~予防と治療」

白石保健センターの区民の健康作り事業の一環として、札幌市医師会白石区支部共催による地域健康教室開催の講師として依頼があり、平成26年9月5日(金)10:00~11:00 東札幌会館2階ホールで、当院の加藤 秀則 副院長による「女性特有のがん(子宮がん)への対応について ~予防と治療」のテーマで、東札幌地区周辺住民約20名を対象に講演を行いました。

子宮頸がんと子宮体がんのそれぞれの違いと予防についてわかりやすく話されました。それぞれの原因について子宮頸がんはHPV感染が引き金となり起こり、子宮体がんは(肥満・不妊・糖尿病)などのホルモン異常が原因となりますが、どちらも早期に見つければ治ること。手術の方法などを写真などで説明されました。

少人数だったせいか、副院長の笑いを交えた内容で、終始なごやかな雰囲気であったという間の時間でした。



副院長 加藤 秀則



「肺がんの予防と対応について」

菊水地区健康作り教室の一環として、札幌市医師会白石保健センターより講師の依頼があり、菊水町内会連絡協議会女性部・菊水町内会連絡協議会・菊水地区健康づくり実践会の主催で平成26年11月4日(火)14:00~15:00 菊水地区会館2階ホールで、当院の近藤 啓史 院長による「肺がんの予防と対応について」というテーマで参加者約70名を対象に講演を行いました。

がんになるしくみ、要因、タバコと肺がんの関係などを図を用いて、わかりやすくまた、楽しく解説していただきました。肺がんは症状が出にくく、がんの要因はたばこ、感染症がいわれている。

北海道の喫煙率は男女あわせると全国1位、女性1位、男性10位となっています。北海道のがんの現状は、男女とも肺がん死が1位!であり、女性肺がんの中では腺がんが70%を占め、肺腺がんは喫煙をしない人に多いこと、肺腺がんは肺(気管支)の奥の粘液などを分泌する細胞(組織)にできる。そのため初期の間、症状はない。症状が出てからではⅢ期、Ⅳ期の段階となっていて全身に転移していることもあることを話されました。

肺がんの予防はCT検診を2年に1回は受けた方が良い事、肺腺がんは「女性ホルモン」と「汚染大気」が原因の一つとされていることから大豆製品を食べると良い事(女性ホルモンの替わりをしてくれる)、きれいな空気を吸うことなど、盛りだくさんの内容でみなさん熱心に聞きっていました。



院長 近藤 啓史



「舌がんに対する放射線治療」

はじめに

日本では口腔がんが1年に約6,000例発生し、その半数の3,000例が舌がんとされています。

舌がんに対する密封小線源治療の適応は、病期Ⅰ・Ⅱ、すなわちT1N0、T2N0とされています。適応を拡大してT3に行われることもあります。表在性のものが対象となり、腫瘍径や厚みの大きいものでは外照射が先行されます。

舌がんの密封小線源治療は根治治療であり、低侵襲で機能と形態の温存ができるという利点があります。しかし、低線量率線源の世界的な供給制限や施設のマンパワーの問題などで、本邦における本治療の実施可能施設は限定されています。

当院は数少ない実施可能施設の1つであり、舌がん密封小線源治療件数は2009年9例、2010年12例、2012年5例、2013年4例、2014年10例でした。

密封小線源について

当院では1967年に226Ra治療を開始し、後に137Cs線源を主体として舌がんに対する低線量率小線源治療を行ってきました。2002年に192Ir高線量率小線源治療装置が導入されましたが、治療線量と放射線障害を起こす線量の間が狭いため、あえて137Cs針による低線量率小線源治療を継続しています。残念ながら137Cs線源は2001年末で製造中止となっています。

当院で使用している医療用小線源の特性・使用法は下記の通りです。

核種	半減期	γ線エネルギー (MeV)	使用法
137Cs	30年	0.662	管は腔内照射、針は組織内照射
192Ir	74日	0.35	腔内・組織内照射
198Au	2.7日	0.41	永久刺入

舌がんに対するCs-137針組織内照射

当院での1978～1997年施行の舌がん組織内照射の治療成績は5年局所制御率で、全例（195例中）：91%、T1（37例中）：97%、T2（112例中）：94%、T3（46例中）：80%でした。

また、5年原病生存率は、全例（195例中）：92%、T1（37例中）：92%、T2（112例中）：86%、T3（46例中）：64%でした。



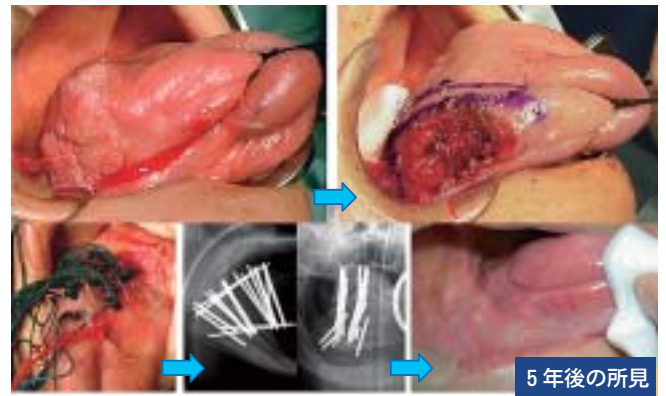
放射線治療部長
西山 典明

腫瘍減量後の組織内照射 (Tumor reduction brachytherapy)

当院では厚みのある外方発育型の舌がんに対してバイオプシー鉗子あるいは電気メスで腫瘍減量切除に1面刺入あるいは2面刺入で小線源治療を行ってきました。

1981年6月～2002年4月施行の22例中2例に再発を認めております。原病死は6例（27.2%）、他病死は6例（27.2%）でした。

図に腫瘍減量後の組織内照射の例を示します。腫瘍部分をバイオプシー鉗子で減量後に、2面刺入で小線源治療を行い、5年後には治癒状態となっています。



おわりに

今後137Cs線源が使えなくなることが明らかとなっており、低線量率イリジウム線源治療（シングルピン・ヘアピン）や高線量率イリジウム線源治療（60 Gy/10F/5日が治療線量）への移行が課題となっていますが、腫瘍サイズの小さいものであれば対応していますので、本治療のご希望があれば御相談頂けると幸いです。

消化器内科

「胃がんとヘリコバクターピロリ菌 ～ピロリ菌について知ろう!～」

今日はヘリコバクターピロリ菌についてお話いたします。

1. ヘリコバクターピロリ菌（ピロリ菌）っていったい何？

ピロリ菌とは胃の粘膜に生息しているらせんの形をした細菌です。ヘリコとは「らせん」、バクターはバクテリア（細菌）、ピロリは胃の出口（幽門）をさす「ピロルス」からきています。1983年にオーストラリアのウォーレンとマーシャルという医師が培養に成功しました。胃の中には食べ物の消化を助けるために胃液が分泌されています。胃液は強い酸性（pH 1～2）のため通常の菌は生息できません。しかし、ピロリ菌は「ウレアーゼ」という酵素を出して、胃の中の尿素を分解してアンモニアを作りだします。アンモニアはアルカリ性なので、ピロリ菌のまわりが中和されてピロリ菌は酸性の胃の中でも生息することができるのです。

2. ピロリ菌に感染するとどうなるの？

主に胃や十二指腸などの病気の原因になります。主に幼少児期に感染し、一度感染すると多くの場合、除菌しない限り胃の中に棲みつづけます。ピロリ菌に感染すると炎症が起こりますが、ほとんどの方は無症状です。しかし、ピロリ菌感染が長く続くと慢性胃炎（ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎）がすすみます。この慢性胃炎が胃潰瘍や十二指腸潰瘍、萎縮性胃炎、胃がん、さらには全身的な病気などを引き起こすおそれがあることが明らかになってきました。

3. ピロリ菌と胃がんの関係

ピロリ菌感染による慢性胃炎が長く続くと萎縮性胃炎になります。萎縮性胃炎が続いた後、一部の患者さんでは胃がんになることが報告されています。WHO（世界保健機構）は1994年にピロリ菌は「確実な発がん因子」とであると認定しました。では、胃がんを予防するにはどうしたらいいのでしょうか？それは除菌といってピロリ菌をやっつけることで胃がんの発症率が低下することが知られています。

4. ピロリ菌はどうやって診断するの？

ピロリ菌の診断検査方法には、内視鏡（俗にいう胃カメラのこと）を使う方法と使わない方法があります。内視鏡を使う方法としては、内視鏡で採取した胃の組織を用いて、「迅速ウレアーゼ試験」、「鏡

検法」、「培養法」という検査法があります。内視鏡を使う検査は胃の中を観察することができるという利点もあります。内視鏡を使わない方法には、「抗体測定」、「尿素呼気試験」、「便中抗原測定」という検査法があります。ピロリ菌の検査は、これらのうち、いずれかをを用いて行われますが、複数の検査を行うと、より確かに判定できるとされています。



腫瘍内科医長
佐川 保

5. ピロリ菌はどうやって治療するの？

ピロリ菌除菌療法の対象となる人は、次の（1）～（5）の病気の患者さんです。（1）内視鏡検査または造影検査で胃潰瘍または十二指腸潰瘍と診断された患者さん、（2）胃MALTリンパ腫の患者さん、（3）特発性血小板減少性紫斑病の患者さん、（4）早期胃がんに対する内視鏡的治療後（胃）の患者さん、（5）内視鏡検査でヘリコバクター・ピロリ感染胃炎と診断された患者さん

ピロリ菌の除菌療法は、2種類の「抗菌薬」と「胃酸の分泌を抑える薬」合計3剤を服用します。1日2回、7日間服用する治療法です。除菌療法は約75%の確率で成功します。

6. おわりに

今では、ほとんどの胃がんはピロリ菌感染によることが明らかになってきました。予防医療としてピロリ菌検査と除菌を強くお勧めしたいと思います。



外来治療センター

「通院で抗がん剤治療を行うとは」

抗がん剤とは大きく分けると主に殺細胞性抗がん薬と分子標的薬の2種類に分けられます。従来からある殺細胞性抗がん薬は、吐き気や白血球が下がるといった副作用が出やすく、その対策を十分にしながら治療をしていくことが大切です。

最近開発が進んでいる分子標的薬は、がん細胞に特に多くある分子に標的を当てて攻撃するため、従来のような副作用の心配は少ないと言えます。しかし、標的となる分子の特徴によって皮膚や目の症状など出ることもあり、やはりその十分な対策が治療の成功を支えることとなります。

近年「入院せずに」「外来で抗がん剤治療を行う」外来抗がん剤治療の増加は急速に進んでいます。その理由として、抗がん剤そのものや吐き気止めなどの副作用対策の発達、医療制度の施策によって各施設で外来設備が整備されたこと等が挙げられます。

当院では2003年に外来治療センターが開設され今年で12年目を迎えます。治療件数は開設当初の年間2800件から徐々に増加し、昨年度はその2倍以上の約6200件となっております。

通院での治療時間は数分で終わる皮下注射から6時間ほどかかる点滴治療まで多岐にわたります。10代～80代の年齢の患者さん（男女比：3：7）が日々治療に励んでおられ、お仕事の合間を縫って来る方、小さなお子さんのいる主婦の方、遠方から前日に札幌入りして治療に備えている方など生活環境も様々です。



通院治療のメリットは生活環境の変化が少なく、ご家族のもとで普段通りの社会生活をしながら治療が行えることが挙げられます。その反面、医療者がそばにいない不安を感じたり、患者さん自身が自分の体調を管理しコントロールしていく能力が必要となります。



がん化学療法看護認定看護師
副看護部長 高橋 由美

メリットが最大限発揮されるためには、患者さん自身の力やご家族の協力、医療者の専門的な知識や技術、患者さんの日常生活に視点をあて、親身に考えていく姿勢が必要であると考えております。

多くの抗がん剤はその作用と副作用は比例しません。日常生活を整えること、副作用のコントロールを上手に行う事が通院での治療を成功に導く秘訣と言えます。副作用は吐き気や皮膚の障害、口内炎などがありますが、どの症状も予防が第一であり、日常生活の工夫でコントロールできることも多くあります。症状が出た時も、早く適切に対処することで副作用とうまく付き合いながら治療を行うことができます。その知識や技術を的確に患者さんにお伝えし、対処していくことが私たちの使命であると考えております。

通院で治療をしている患者さんは身体的な副作用だけではなく、仕事や金銭面での問題、ご家族への影響などにつらさを感じていることもあり、より色々な職種で患者さんに関わり、チームで支えていくことが大切であると考えております。

患者さんがご自宅で安心して生活ができ、通院での治療が続けられるようスタッフ一同力を合わせてこれからも取り組んでまいります。

乳 腺外科

「乳がんの新しい治療 ～情報の波にのまれないように～」

乳がんは増え続けており、現在日本人女性の12人に1人が乳がん罹患すると言われていています。比較的若い女性に多いため関心も高く、①テレビ・ラジオ・新聞などのマスメディア ②一般書・専門書 ③インターネット ④口コミ・風評など医療情報が氾濫しています。根拠のないもの、営利目的、個人の思い込みなども多く、いったいどれを信じていいのか迷ってしまいます。惑わされないためには、より信頼性の高い情報を得るとともに、乳がんを正しく理解しておくことが重要です。本日は、是非知っておきたい乳がんの基本的なこと（毎回お話ししている内容です）と乳がんの新しい治療（最近の話題）をお話しします。

（１）知っておきたい乳がんのこと

まず乳がん治療の目的を確認します。「元気で長生き」という言葉に集約します。言い換えると「生活の質（QOL）を保ち生存期間を延ばす」となります。そのためにはがんによる症状や治療に伴う症状がないこと、再発しないこと、再発しても進行させないことが必要です。初期治療の目的は再発の可能性を下げることで、手術のみではなく適切な薬物療法が大切です。乳がんのサブタイプに応じてホルモン療法、抗がん剤、抗HER2療法（ハーセプチンなど）を科学的根拠に基づいて選択します。転移・再発後も薬物療法が中心になりますが、長く病気と付き合っていくことが目標なのでQOLを維持するために副作用対策も重要です。また乳がん検診を受けることも大事ですが、「検診さえ受けていれば安心」ではないことをご理解ください。やはり適切な治療が必要です。

（２）乳がんの新しい治療

最近、遺伝性乳がん・卵巣がん症候群（HBOC）に対する予防切除が北海道がんセンターで可能となったとのニュースが新聞などで流れました。HBOCはBRCA1/2などの遺伝子の変異が原因で、高い確率で乳がんや卵巣がんになります。疑わしい場合には当院の遺伝子先端医療外来でカウンセリング、リスク評価を受け、場合により遺伝子検査を受けることが可能です。検査の結果、変異がある場合、早期発見や早期治療など健康管理に役立てることも可能です。

また保険適応となっている乳房再建手術についてもご説明しました。ご相談は当院乳腺外科・形成外科で応じています。新しい薬の治療の可能性として、遺伝子変異がある場合に効果が期待できる分子標的治療の開発が進んでおり、当院で治験に参加できる場合があります。



乳腺外科医長
渡邊 健一



－ 開催報告 平成26年度 がん看護研修 －



教育研修係長
・看護師長
相生 洋子

1 がん看護研修ステップI（9月9日・26日）

内容は「がん化学療法とその看護」「放射線療法を受ける患者の看護」です。受講者は当院の看護師40名に加え、市内の看護師21名の参加で行われ、講師は、当院の副看護師長で認定看護師のお二人にお願いしました。

研修は、講義に加えて実際の治療計画を用いた演習などもあり、治療に対する理解が深まり個別性のある看護の実際を学びました。

化学療法も放射線療法も治療計画を理解することで有害事象の発現時期を特定し、看護ケアや患者オリエンテーションに生かして欲しいと締めくくられました。



佐々木放射線療法看護認定看護師



治療計画に取り組む受講生



高橋がん化学療法看護認定看護師

2 ELNEC-J研修（9月18日・19日 2日間）

ELNEC-J研修は、人々への質の高いエンド・オブ・ライフ・ケア（病や老いなどにより、人が人生を終える時期に必要なとされるケア）を提供できるように知識・技術を習得する目的で行われる研修です。講師は、当院のがん看護専門看護師2名が中心となり、外部から3名の指導者をお呼びして実施しました。

昨年まで当院の看護師を対象に実施してきましたが、今年度より、院外からの参加者を募集し、院内8人、院外9人の参加でした。

研修後のアンケートでは「講義だけでなく事例検討や、ロールプレイがあり楽しみながら参加できた」「資料や内容が充実しており大変分かりやすかった」「この学びを今後の看護に活かしたい」などの意見が多く満足度の高いものでした。



修了証書を手に記念撮影



ロールプレイ（コミュニケーション）



グループワーク（事例検討）

がん専門医が行う当院のがん検診



外来師長
早坂 砂江子

当院では札幌市検診である乳がん検診・子宮がん検診・大腸がん検診・胃がん検診のほか、胃内視鏡検診・PSA検診（前立腺がん）低線量肺がんCT検診・腹部3大がん検診・4大がん検診を行っています。

どの検診も専門医師による検診となっています。乳がん検診・子宮がん検診・大腸がん検診・胃がん検診のほか、胃内視鏡検診・PSA検診（前立腺がん）については検診当日に医師により結果を聞いてお帰りいただくことができます。

今年7月より「低線量肺がんCT検診」「腹部3大がん検診（胃内視鏡・腹部エコー・便潜血）」「4大がん検診（肺CT・胃内視鏡・腹部エコー・便潜血）」の3つの検診を始めました。「低線量肺がんCT検診」では従来の胸部単純X線検査による検診より、被ばく量が少なく小さな、より早期の肺がんを発見することができると、国内および国外の研究で報告されています。「腹部3大がん検診」では胃・大腸のほか腹部エコー検査で肝臓・胆嚢・膵臓・腎臓・脾臓の検診もできます。「4大がん検診」では肺と腹部の検査を午後の半日で受けることができるように設定しました。これらの検診の結果は後日郵送となりますが、今後どのように診察や検診を受けたらよいかの説明もさせていただきます。

都道府県がん診療連携拠点病院として検診にも力を入れていきたいと考えております。

がんは早期発見・早期治療が重要であることはいうまでもありません。

電話での予約を受け付けておりますのでぜひお問い合わせください。

▼低線量肺がんCT検診

料 金：8,640円（税込み）

検診日：完全予約制 / 月～金曜日 ①12:00 ②15:00

▼4大がん検診

1. 腹部エコーによる肝臓・胆のう・膵臓・腎臓・脾臓検診
2. 低線量CTによる肺がん検診
3. 胃内視鏡（胃カメラ）による上部消化管検診
4. 便潜血反応による大腸がんスクリーニング

料 金：19,760円（税込み）

検診日：完全予約制 / 毎週 月曜・水曜

①14:00 ②14:20 ③14:40

▼腹部3大がん検診

1. 腹部エコーによる肝臓・胆のう・膵臓・腎臓・脾臓検診
2. 胃内視鏡（胃カメラ）による上部消化管検診
3. 便潜血反応による大腸がんスクリーニング

料 金：11,120円（税込み）

検診日：完全予約制 / 毎週 月曜・水曜

①14:00 ②14:20 ③14:40

▼前立腺がん検診 ※PSA採血により当日のうちに結果がわかります。

料 金：4,900円（税込み）

検診日：完全予約制 / 毎週 月・木曜日 11:00～

▼子宮がん検診

①札幌市検診：札幌市在住の満20歳以上で偶数歳の方（2年に1回）

子宮頸がん検診 1,400円

子宮頸がん・子宮体がん検診 2,100円 問診・視診・内診・細胞診

70歳以上の偶数歳 無 料

②定額検診：上記①に該当しない方

子宮頸がん検診 3,710円 問診・視診・内診・細胞診

子宮頸がん・子宮体がん検診 6,480円 問診・視診・内診・細胞診・超音波検査

検診日：①②完全予約制 / 毎週 水・金曜日 13:00～

▼乳がん検診

①札幌市検診：札幌市在住の満20歳以上で偶数歳の方（2年に1回）

40歳～49歳 1,800円 問診・視触診・マンモグラフィ（2方向撮影）

50歳～69歳 1,400円 問診・視触診・マンモグラフィ（1方向撮影）

70歳以上の偶数歳 無 料

②定額検診：上記①に該当しない方

49歳以下 5,710円 問診・視触診・マンモグラフィ（2方向撮影）

50歳以上 5,400円 問診・視触診・マンモグラフィ（1方向撮影）

検診日：①②完全予約制 / 毎週 火曜日 14:00～

毎週 金曜日 14:30～



● 検診のお問い合わせは 外来予約センターへ

…… 当院2F 外来予約センター ……

☎ 011-811-9111（内線528）

月曜日～金曜日（祝日をのぞく）

窓口 9:00～16:00 電話 13:00～16:00

日時 9月6日(土)
10:00～15:00

場所 独立行政法人 国立病院機構
北海道がんセンター

開催報告

たくさんの方のご来場とご協力
ありがとうございました。

ステージ・イベント



座長：永森
教育研修部長

ミニ講演会

1. 抗がん剤治療にまつわるお話
がん化学療法看護認定看護師 高橋 由美
2. 栄養素の力で、気になる症状がスッキリ！
管理栄養士 川合 彩絵
3. 家庭でもできる感染予防
～インフルエンザ・ノロウイルス感染への備え～
感染管理認定看護師 栗山 陽子



高橋看護師



川合栄養士



栗山看護師

無料検診・測定 など

- まちの保健室
- 血糖値測定
- 肺年齢測定
- 頸動脈エコー体験
- 前立腺がん(PSA)検診



各種コーナー

- 睡眠時無呼吸相談
- 知ってほしい 治験のこと
- 福祉なんでも相談
- 患者会紹介
- 栄養相談
- おくすり相談



ちけんくん

- 標本を見てみよう
- 健康づくりのために ～脳と体の運動～
- 大切なのは予防と発見!

- がん検診を受けてみませんか?
- 医療用ウィッグ展示
- 各科紹介パネル展示
- がん登録情報
- 病院見学ツアー
(手術室・ダヴィンチ・内視鏡室・リニアックなど)
- がん情報
- 地域連携室情報
- ボランティアバザー
- 模擬店

がんウルトラクイズ



今年の問題は
ちょっと難し
かったかな?

高橋 統括診療部長



院長で～す♪

近藤院長とゆかいな仲間たち!?

薬局見学と調剤体験



正しい手洗いを学びませんか?



安全・安楽な化学療法 ～美しい輝きを～



快適なお口づくりのために



病院食試食



今年も大好評



練習モデルでの創の縫合体験



うまく
できるか?

わあっ
膨らんだ

医療機器体験



来年も開催する予定です。
ぜひ、お越しください。



緩和ケア診療科医長
松山 哲晃

「いつでも、どこでも、緩和ケアを」

緩和ケアとは、がんを始めとした生命をおびやかす病気に伴う、身体的なつらさやこころのつらさを和らげる医療活動を指します。終末期の患者さんを対象としたホスピス病棟でのケアがその起源ですが、患者さんの苦痛は病気の初期や診断の前後から存在すること、その苦痛を緩和することが、抗がん治療や日々の生活にとって大変重要であることがわかってきました。

最近の研究によると、抗がん治療だけを行うよりも、抗がん治療に初期からの緩和ケアを併せて行うほうが、患者さんの生命予後が延びたという報告も出てきました。つまり、当初は終末期、抗がん治療の手立てがなくなってしまった患者さんの苦痛を和らげることが目的だった緩和ケアは、いまや病気の初期からどの時期でも、患者さんの生命や自分らしい生活を支えるために欠かせない治療になってきてきます。

その一方で、実際に患者さんの種々の苦痛が緩和されているかどうかについては、まだまだ十分とはいえませんが現状です。病気の初期から高い頻度でみられる「痛み」「精神的なつらさ」についても、十分な緩和治療がなされていないと感じている患者さんが多い、というアンケート調査の結果もあります。患者さんが“いま”“ここで”抱えている苦痛を緩和するための医療技術は、特定の医師や病院だけが持つべきではありません。どこで暮らしていても、どの病院で治療を受けていても、全ての患者さんが一定の水準の緩和ケアを受けることができるのが理想です。

この理想を実現するために、全国のがん拠点病院などで、がん診療に携わる医師が緩和ケアについての基本的な知識を習得することを目的とした「緩和ケア研修会」が平成20年度から例年開催されています。当院では平成21年度から始まり、今年10月12日、13日の2日間にわたって第6回の緩和ケア研修会を開催しました。今回も札幌市内のみならず、岩見沢、旭川、帯広など道内各地から30名の参加がありました。参加者の年齢層は27歳から68歳までと幅広く、地域の中核病院から、訪問診療専門の診療所まで、所属する医療機関も多様でした。元々は医師を対象とした研修会ですが、看護師など他の医療職種の方も希望に応じて参加を受け入れており、今回は19名の医師、10名の看護師、1名の臨床検査技師という内訳でした。

プログラムは厚生労働省が定めた指針に準拠したもので、がんに伴う種々の症状と緩和方法についての講義、痛みを抱える患者さんに、安心して医療用麻薬を使用してもらうためのロールプレイ、患者さんの心情に配慮した面接のロールプレイ、在宅療養など患者さんの希望する療養環境をいかに実現するかを検討するグループワーク等、質・量ともに充実した内容で、所用時間も2日間で合計12時間以上になります。それにも関わらず、参加者全員が積極的に集中して取り組まれ、一人も欠けることなく全プログラムを修了されました。修了後に行ったアンケート調査では、参加者の皆さんからは期待にかなう内容で十分に理解できた、と好評をいただき、他の医療従事者にも研修会参加を強く勧めたい、とご回答いただきました。

この緩和ケア研修会は、平成19年6月に国会に提出された「がん対策基本計画」に掲げられている、今後10年以内に「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得する」目標のために開催されています。平成20年度から数えて本年度で7年目となり、国内地域によってはがん診療医師の受講率はかなり高くなったと聞きますが、まだ医師の受講率が低い地域もあります。この研修会を修了された医療者の皆さんが、がん診療における緩和ケアの意義を再認識しつつ日々の診療にあたることで、周囲の医師や看護師、パラメディカルスタッフ、そして治療を受けられる患者さん側にも影響が広がり、全てのがん診療の場で緩和ケアに関する関心や知識が高まることを願いつつ、来年以降も研修会を開催していきたいと考えています。



平成26年度 第1回 北海道がん相談研修会



がん相談支援センター
認定医療社会福祉士
木川 幸一

日時：平成26年10月18日（土）13:30～17:00

定員：80名

内容：①講演「ピアサポートの現状～患者サロンの課題と方針」

～兵庫医科大学社会福祉学 准教授 大松 重宏氏

②講演「聖マリアンナ医科大学病院におけるがん相談支援とサロン運営の現状」

～聖マリアンナ医科大学病院 がん相談支援センターソーシャルワーカー 松隈 愛子氏

○グループディスカッション

当院と北海道の共催で開催しました。北海道内のがん相談員、行政職員のほか、患者会や北海道対がん協会などがん患者サロン運営に携わる75名の参加で講演を聞き、今後のサロン運営についてディスカッションする内容となりました。



兵庫医科大学
社会福祉学 准教授
大松 重宏先生



聖マリアンナ医科大学病院
がん相談支援センター
ソーシャルワーカー
松隈 愛子先生



グループワーク後の全体発表

第12回 北海道がん専門相談実務者会議

日時：平成26年10月31日（金）13:30～17:00

内容：①北海道がんセンターにおける症例別症例検索システム、就労支援相談の対応について

②北海道がんサポートブックの改訂について

③レクチャー「がんサバイバーシップ研究が目指すもの
ーご当地カフェー」

高橋 都先生（国立がん研究センターがん対策情報センターがんサバイバーシップ支援研究部部長）

北海道がん診療連携協議会相談情報部会主催として、本会は当院が担当しました。北海道内のがん相談実務者46名が参加し、北海道におけるがん相談支援センターの運営についてディスカッションする内容となりました。



お知らせ

● 白石 おもしろい! 「ニュースポーツ&すこやかフェスタ」

日時：平成26年12月20日（土）10:00～15:00

場所：札幌コンベンションセンター
大ホール
札幌市白石区東札幌6条1丁目

● ミニ講演会「肺がんに負けないで」

北海道がんセンター 院長 近藤 啓史先生

● ブース 内視鏡手術体験・各診療科紹介パネル

入場無料

【お問い合わせ】北海道がんセンター 地域医療連携室 (011) 811-9117 (当院参加の講演会とブースについてのみ)

ポラライカ・ミニ・コンサートについて

「Balalaika Mini Concert (バラライカ・ミニ・コンサート)」

バラライカ・ミニ・コンサートと題しまして、平成26年度第3回目の院内コンサートを8月26日(火) 1階外来ホールにて15時より開催致しました。

演奏いただいたナウモフ・ドミトリーさん、矢野裕美さんのお二人はご夫婦でロシア・モスクワ地方音楽専門学校にお勤めされており、2003年にデュオを結成後、ロシア国内外でのコンサート活動や学校での後進において指導にあたっています。

今回、矢野さんの育児休暇中にご家族が当院にお世話になっているとのご縁があり、開催が実現いたしました。

バラライカはロシアの代表的な弦楽器で、ギターと違い、共鳴胴が三角錘形をしているのが特徴です。バラライカを演奏するドミトリー・ナウモフさん、ピアノ演奏、作曲などを幼少より行っている矢野 裕美さん、ともにロシア国内外のコンクールにおいて優秀な成績を収められています。

バラライカとピアノによるロシア民謡「鳴れ、私のバグパイプ」により始まった演奏会は、ピアノソロ3曲を含む全17曲となりました。そのうち、ピアノソロ3曲は入院中のご家族が矢野裕美さんに是非演奏して欲しいと熱望されたもので、それに応えるべく心を込めた情熱的な演奏を披露されていると感じました。

ロシアから日本の「ふるさと」まで、幅広く素敵な音色を奏でた演奏会1時間は、あっという間に時間が過ぎてしまいましたが、最後に当然とも思えるアンコールの演奏が入り全18曲で幕を閉じました。



この場をお借りしまして出演された方々に、深く感謝申し上げます。

お知らせ

北海道がんセンターにスマートフォン版ページができました。
右記 URL を入力またはQRコードからアクセスください。

<http://www.sap-cc.org/sp/>



独立行政法人 国立病院機構

北海道がんセンター
Hokkaido Cancer Center

都道府県がん診療連携拠点病院

〒003-0804

北海道札幌市白石区菊水4条2丁目3-54

代表 TEL (011) 811-9111

FAX (011) 832-0652

ホームページ <http://www.sap-cc.org/>

● 相談窓口

がん相談支援センター

直通電話 (011) 811-9118

地域医療連携室

直通電話 (011) 811-9117

直通FAX (011) 811-9110

メールアドレス hcccis00@sap-cc.go.jp

交通のご案内



【地下鉄】 地下鉄東西線「菊水駅」下車、3番出口より徒歩3分

【自動車】 駐車場につきましては数に限りがありますので、できるだけ、公共の交通機関をご利用下さい。